

## 2組のクラス会を5年ぶり、上田で開催

幹事：上原昇(2組)

2組はこれまでも、地元と関東で時々クラス会を開いてきました。

最近では2019年10月、群馬県新鹿沢温泉で旅館業を営んでいる故土屋（旧姓：野口）実君のところで開催しましたが、コロナ禍もあり、その後5年間中断を余儀なくされていました。

10月18日（金）の昼どき、同期会でお馴染みの「香青軒」（上田市中央）で、久しぶりのクラス会を行い、各地から14名の仲間が参集しました。

2組の卒業時の生徒数は43名でした。7月に現住所が確認できる33名全員に開催案内を郵送しました。その結果、地元長野県から8名、それ以外から6名の出席となり、一番遠方の田村一平君（丸子町出身）は郡山から車で駆けつけてくれました。

2組のクラス会で14名の出席は記憶している限り最多になります。

会場の受付では、高校卒業以来（?）、約60年ぶりの再会でお互いに名前と顔を確認するシーンも見られました。

冒頭、これまでに亡くなった10名の級友に黙とうを捧げました。（他のクラスに比べて多いのではと思います）

開会挨拶と乾杯発声は地元を代表して小山壽一君（上田市在住）が音頭をとってくれました。

宴たけなわになったころ、出席者からの近況報告を兼ねた3分間スピーチが始まります。

我々の年代となると、どうしても病気のことや健康関連の話になるのは仕方ありません。

他には家庭菜園で汗を流している人も多いのが印象的でした。

紅一点で出席した田中（沓掛）由紀子さん（上田市在住）の「久しぶりに会って、顔や風貌が変わっても、声を聞くと昔と変わっていないです」という話には説得力がありました。

早めに退席する人に合わせ、急遽、集合写真を撮った後も、暫くは会場のあちらこちらで懇談の輪が広がりました。

「香青軒」で閉会後は近くの喫茶店に場所を移して9名での二次会になりました。

地元幹事が事前にお店と話を付けて、ここでもビールなどを持ち込み盛り上がり、周りのお客さんには迷惑をかけてしまいました。（地元ならではの柔軟な対応に感謝）

12時からスタートしたクラス会はこうして16時ごろに、名残惜しく散会となりました。

次は来年の7月12日に予定されている65期喜寿記念同期会で再会しましょう。

出席した俳人の田中由紀子さんから当日の雰囲気詠んだ句が寄せられました。

- ・「やあ」「おう」が時を飛び越へ翺雲
- ・黙祷で始まる宴 秋高し
- ・昼の虫覚へていないこと多く
- ・出鱈目の唄唇に月の路地



クラス会の様子



前列左から 横山、小山、丸山、田中由紀子、  
中列左から 松本、上原、田村、龍野、小宮山、  
後列左から 葦澤、田中昇、林、関、日野

(2024年10月21日)

以上